

平成27年度 白川・緑川学識者懇談会

【白川水系河川改修事業の進捗状況】

平成27年6月12日
熊本河川国道事務所

H27 実施箇所位置図【白川(熊本県)】



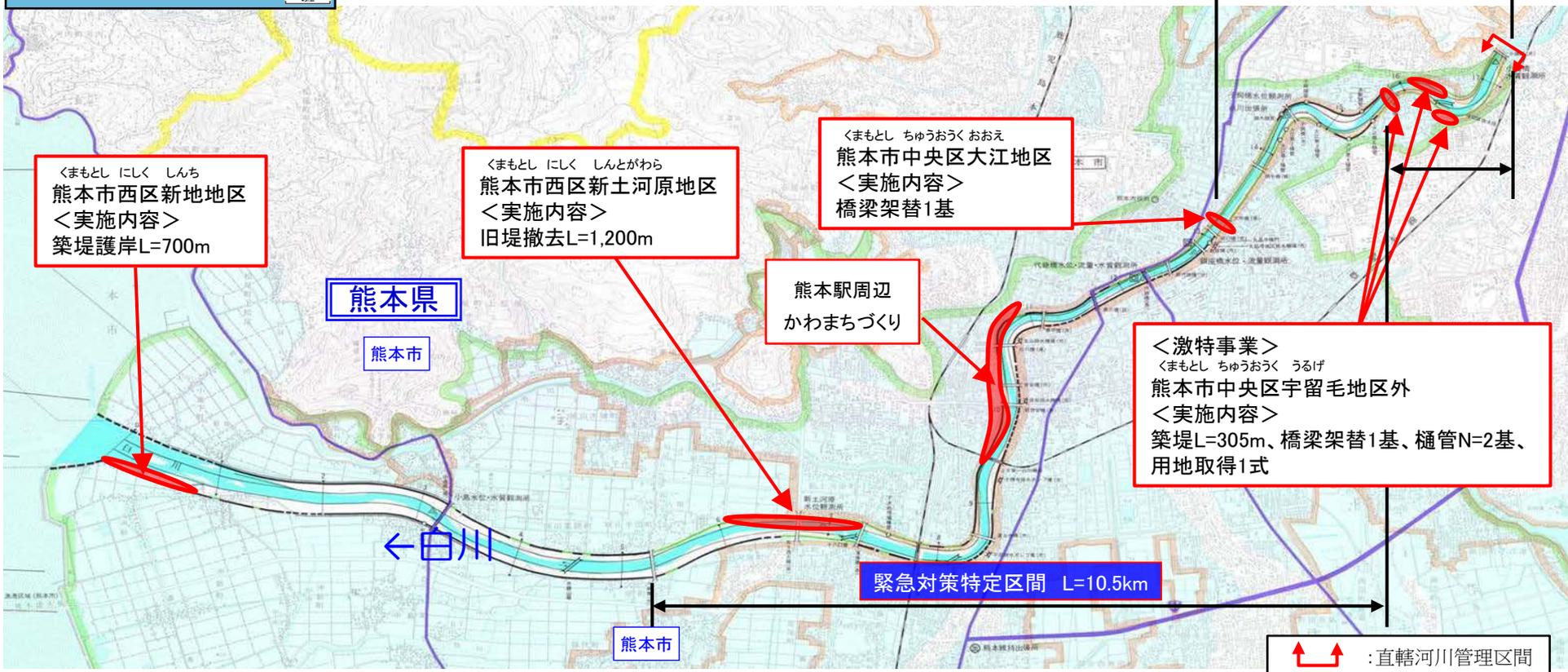
H27施工箇所 (都市基盤・激特・環境整備)

くまもとし にしく しんとがわら

熊本市西区新土河原地区

外6箇所

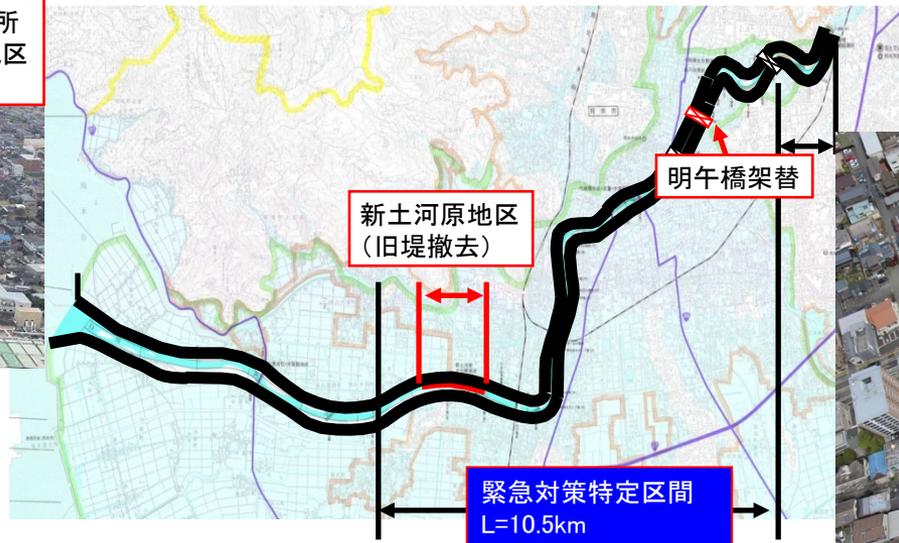
旧堤防撤去、橋梁架替、築堤護岸 等



白川改修事業(緊急対策特定区間)の整備状況

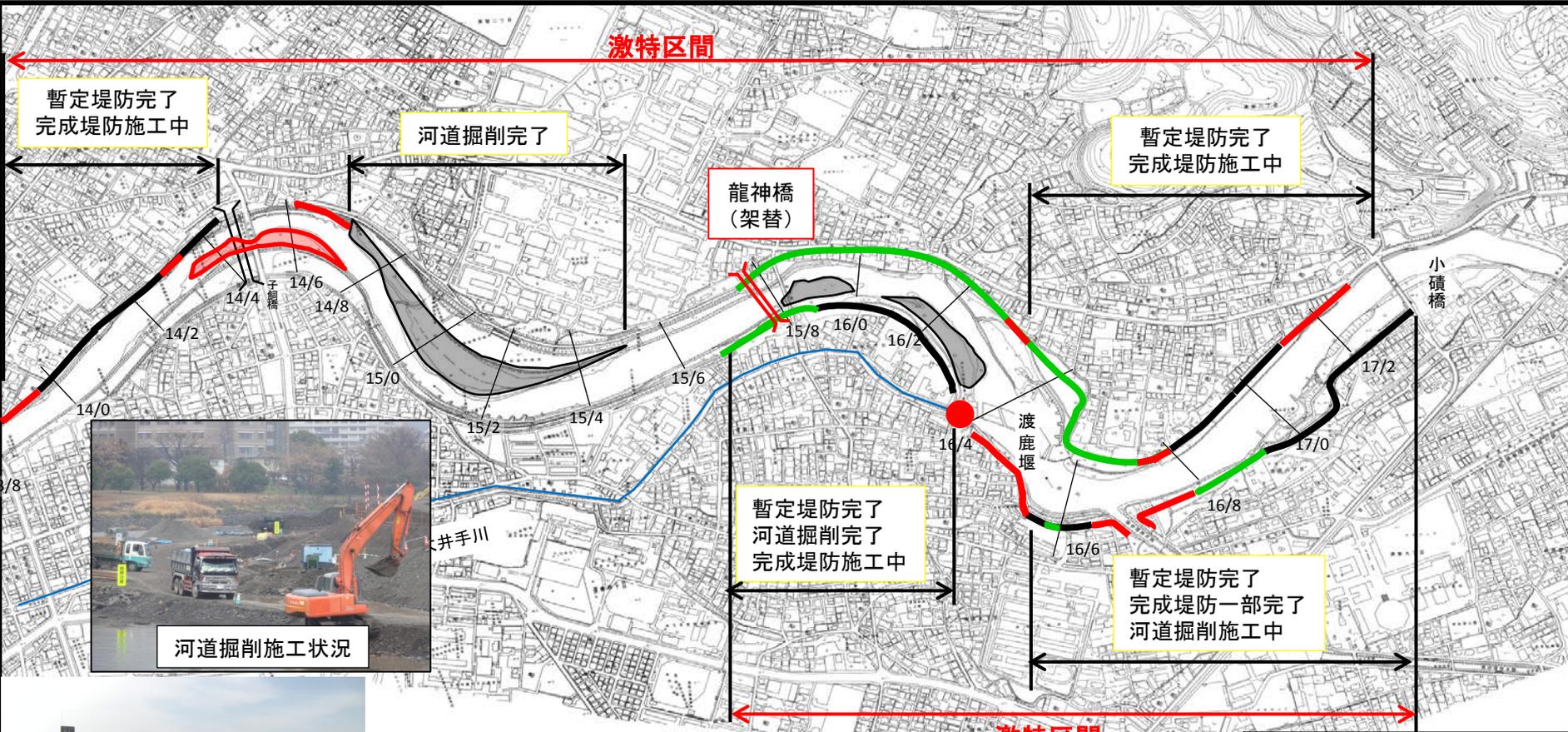
- 平成27年度は、**明午橋の上部工**及び、**新土河原地区の旧堤撤去**を実施。
- 平成28年度、明午橋架替の完成により緊特事業完了。

	平成24年度												平成25年度												平成26年度												平成27年度												平成28年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
新土河原地区	築堤護岸												堤防完成																								旧堤防撤去																							
緑の区間 左岸側	低水護岸整備												水際工												高水敷整備												植栽工												護岸工、橋詰部整備											
緑の区間 右岸側	天端、橋詰部、階段工等整備																								低水護岸・水際工																								護岸工、橋詰部整備											
明午橋(新設)													仮橋設置												下部工(左岸橋台) 下部工(右岸橋台、橋脚)												取付道路																							
明午橋(撤去)																									河道掘削→流下能力確保												上部工												上部工											
明午橋(撤去)																									上部工撤去、下部工撤去(左右岸橋台)												下部工撤去(橋脚)												仮橋撤去											
明午橋～子飼橋 左岸側	築堤護岸																								築堤護岸												築堤護岸																							



白川激甚災害対策特別緊急事業の進捗状況

- 平成24年7月出水を踏まえ、河川激甚災害対策特別緊急事業(激特)を平成24年11月に採択。
- 平成24年7月出水により越水した箇所について、約2kmの暫定堤防(被災水位までの)の施工が完了。現在、河道掘削及び堤防の整備を実施しているところ。
- 平成27年3月時点で全体工事費の約43%が進捗し、今後も用地取得を進めるとともに堤防整備をすすめる。



- 白川激特事業の概要(直轄分)
- ・事業区間: 白川13k800~17k300(L=3.5km)
 - ・事業費: 約123億円
 - ・事業期間: 平成24年度より概ね5年間
 - ・整備メニュー: 河道掘削、築堤、樋管、橋梁改築等

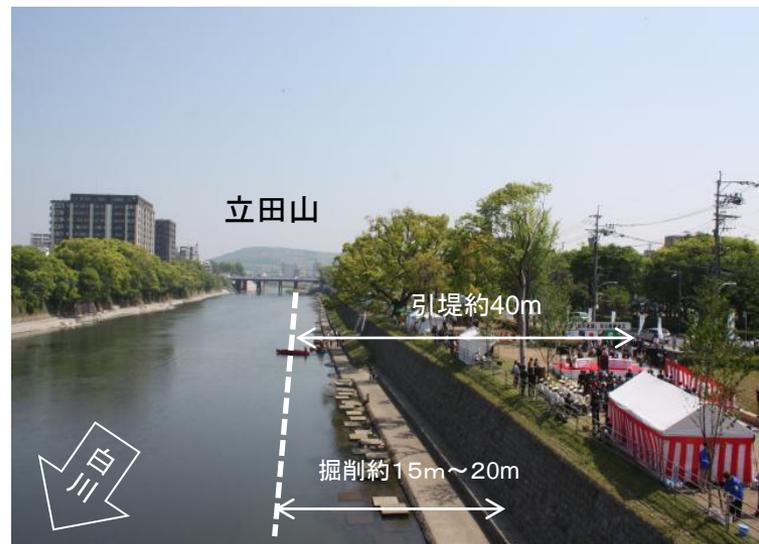
施工年次凡例	
	完了(完成堤防)
	平成27年度実施予定
	平成28年以降

「緑の区間」河川整備竣工式

- 熊本中心市街部を流れる白川において、「緑の区間(大甲橋～明午橋)」の整備完了を祝う竣工式を開催。
- 昭和61年の改修計画公表以降、長きに渡る関係者の努力により無事に竣工。
- 竣工式後には、ミズベリング白川74も開催され、大勢の市民が「緑の区間」に集い大盛況。

- 開催日：平成27年4月25日(土)
- 場所：白川左岸(新屋敷側)大甲橋上流

- 式辞：金尾健司 九地整局長
- 祝辞：蒲島郁夫 熊本県知事
- 野田毅 衆議院議員
- 木原稔 衆議院議員
- 松村祥史 参議院議員
- 馬場成志 参議院議員
- 謝辞：大西一史 熊本市長



テープカット・くす玉開披

「緑の区間」河川整備

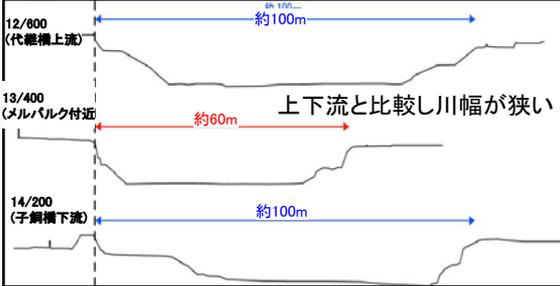
・緑の区間(大甲橋から明午橋間)は、樹木が両岸に繁茂しており、川面に映しだされる樹木や立田山などと相まった景観や公園が森の都くまもとを象徴する地域として熊本市民らから親しまれているが、この区間は特に川幅が狭く、堤防も整備されていなかったため、過去の洪水時に溢水氾濫が生じるなど治水上非常に危険な区間となっており、熊本市中心市街地を浸水被害から守るうえで重要な箇所となっている。

・治水と環境の調和を図りながら整備していくため、限られた用地の中で治水と環境の調和を図るべく、堤防のデザインや水辺づくり、樹木の配置について住民の意向を反映しながら検討を進め、治水整備を実施した。

緑の区間の課題

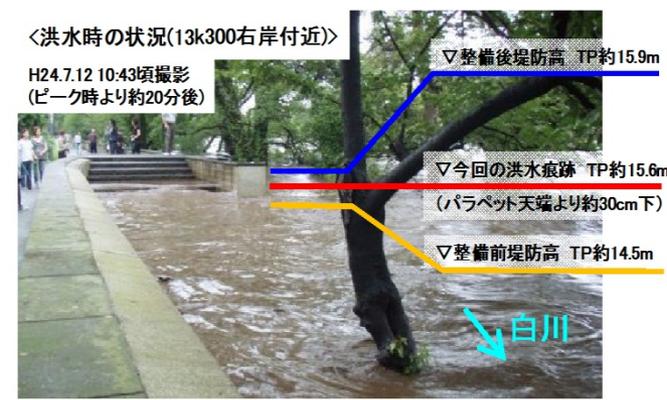
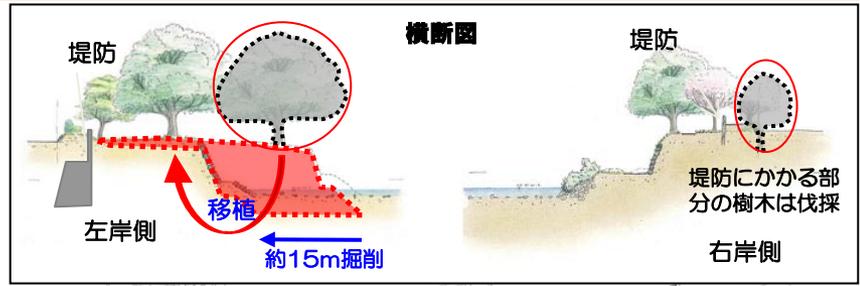
治水面:
上下流と比較して極端に川幅が狭いうえに堤防が未整備のため、治水上非常に危険な区間。

環境・利活用面:
両岸の繁茂する樹木による景観や公園が熊本市民から親しまれており、保全を求める声が多い。



緑の区間の整備

白川市街部景観・親水検討会(H14.11~H16.3)において提案された景観・親水の設計の基本的考えを受け、白川市街部景観・利活用検討会を開催し、地域住民や専門家により整備方法、維持管理のあり方について検討を行った結果を踏まえ、緑の区間の整備手法を決定した。



H24.7洪水時の状況

